



市議会議員  
大塚恵美子



市議会議員  
白石えつ子



2016年8月  
東村山生活者ネットワークニュース

# 障がいがあってもなくてもともに学ぶ 「インクルーシブ教育」を！

## 西条小学校視察報告

山梨県中巨摩郡昭和町にある西条小学校に、同校卒業生保護者の紹介により、会派（佐藤真和、大塚恵美子、白石えつ子）で視察に行きました。  
今回の視察目的は、子どもの視点に立った障がい児教育を学ぶことでした。

### 分けない教育が あたりまえ！

昭和町は、人口2万人弱のアルプスの山々に囲まれた自然環境豊かな小さな町です。ほたるも生息し、すべての小学校校章にまちのシンボルほたるが描かれています。

町内に小学校3校・中学校1校があり、西条小学校児童数は444名です。同校では、特別支援学級（ひばり学級）に8名が在籍しています。病弱（身体含む）・知的・情緒障害など対象ごとに学級が設置され担任が付きます。障がい児も通常学級に籍を置き一緒に同じ教科書で学び、難しい教科書をひばり学級で学習します。集中力を養うため机についたてを立てたり、教

室のドアガラス面に紙を貼るなどの工夫がされています。教室の隣にひばり学級を置くことで、教室間の移動を短くする配慮もされていました。空き教室は、障がいに限らず様々な困り感を持った子ども達の学びに活用され、給食時間も通常学級と一緒に食べるなど、あらゆる場面で分けない教育がされていました。

こうして、通常学級の子どもにも日常的な関わりの中で障がい児への理解が培われています。

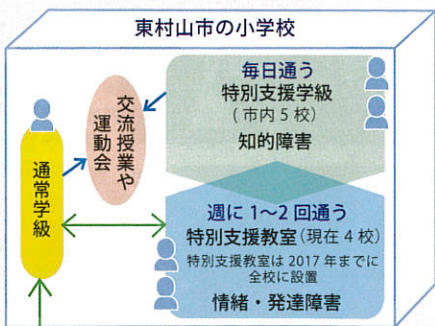
昭和町は企業も多く、財政も豊かな町です。教育にかけるソフト面（人材）、ハード面（施設）を重視し、子どもたちがのびのびと育つことに心を傾け、なんと、不登校ゼロを実現しています。

今回の視察で幼少期から

障がい児を分けない教育をおこなうことが、全ての子ども達に必要なという思いを更に強くしました。

当たり前前に障がい児が隣にいる環境づくりを進める事が東村山にも必要です。大勢の人と真のインクルーシブ教育を共有し、実現していきたいと思えます。

（白石えつ子）



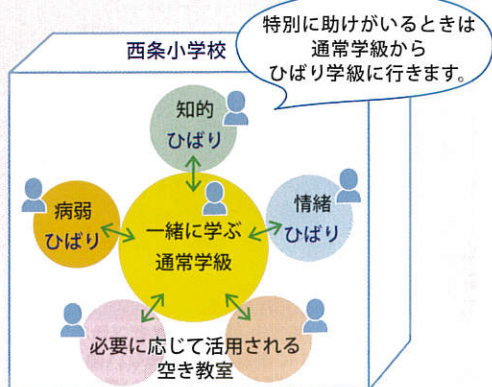
ひばり学級を通常学級の隣に設置することで、日常的に交流があります。



同じ教室で過ごすことで、お互いの理解、学びにつながっています。



同じ教科書を使用しています。





障害のある人もない人も  
共に生きる

市議会議員

白石えつ子

詳細はこちら

http://shiraishi.seikatsusha.me/  
Facebook: 白石えつ子



江戸川区。自宅でも施設でもない新しい住まいを実現したほつと館を見学。健康麻雀・お習字などサークルも用意され、1階にはレストランとクリニック、2、3階は住まいがあり、医食住が完備された理想的な空間でした。



貧困対策法成立3周年。あすのば設立1周年のついでに参加。子どもの貧困に気づいたのはあしなが育英会の大学生でした。貧困対策法が困り感を持っている子どもに届くようにと、ここまで寄り添ってきた理事小河先生の涙は、訴えていました。



縁がわ本町の企画「みんなで歌おう、ハーモニーボコ」に参加。斉藤先生の指導のもと、身体を動かしてから声出し、童謡から歌謡曲などを歌い、みんな笑顔で楽しい時間を過ごしました。



「ワーカーズ文化祭 みんなでコラボ 知ればできる事業連携」に参加。雇われない働き方を先駆的に進め、今51団体が活動しています。それぞれの事業報告と特技を披露。三線、エプロンシアター、劇、歌など盛りだくさんでした。

# 生活者ネットワーク 一般質問より

# 6月東村山市議会報告

## ●子どもの視点に立ったインクルーシブ(排除しない)教育を

通常学級に在籍する発達障害の子どもは自立と社会参加を、生涯に渡る支援のために必要な「個別の支援計画」の現況について質問しました。東村山市では、発達障害と思われる子どもは4.5%の割合で在籍します。H27年度の「個別の支援計画」は、小中学校で平均22.5%と低い作成率でした。作成に必要な、保護者と本人の同意が得られない事、療育手帳や精神保健手帳を所持していない事などの課題が分かりました。

## ●不登校状態にある児童生徒にも学ぶ権利を

希望学級は不登校状態にある子どもが通う市内唯一の学習室(大岱小内)です。市のH26年度不登校は、小学生50名、中学生169名で年々増加傾向にあります。H27年度、希望学級登録は、小中合計52名です。近年の実績で通っている生徒は約20

## ●子どもが自己肯定感をもって育つための環境の整備について

学習支援だけでは解決できない子どもたちの貧困は16.3%の子どもの貧困は子どもたちの権利をそくない否定する問題であり、自治体における重要課題だ。あらゆる政策に「子ども対策」の視点が必要であることから「子ども貧困」に再度スポットをあてた。東村山市の生活困窮者自立支援事業のうち「学習支援事業DESC」が注目をあびている。100名を超す中学生が週に2回、大学生ボランティアから勉強をサポートされ高校受験した全員が合格を果たした。学ぶ機会だけでなく、おしゃべりや相談ができる居場所として機能させた意味は大きい。

倍となっていることがわかった。6人にひとりが貧困の状態にあり看過できないことから、中学校の完全給食の実施を提案したが、「手づくり弁当をもたせたい」という愛情問題にすり替えられたままの答弁に終始し現状認識のなさは残念であり、後日、横須賀市の完全給食開始が報道され、教育委員会の態度の違いを痛感した。

いまや進学のために奨学金借金をする学生は2人にひとり。平均で300万円を借り、貧困の連鎖は日常的なものになっている。給付型の奨学金対応を求めたが、5年目となる「受験生チャレンジ支援貸付事業」が希望の学校に入学した場合、貸付金の返却はしなくていいことを知り

た。さらなる周知と活用が望まれる。学習支援事業だけでは対応できない総合的な支援のあり方について市長からは、教育と福祉の領域が重なる部分をどこが担当するか難しいが、工夫し切れ目のない支援につなげていきたいとの答弁があった。「東村山子ども相談室」が動き出した。臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士による療育が期待されるが、福祉視点のアウトリーチが必要であり、3人のスクールソーシャルワーカーを活かし、まずは連携をつくってほしい。

日本弁護士連合会が「子どもの貧困対策推進モデル条例案」をつくれた。今後、東村山でも「子どもの貧困対策センター」としての機能をつくり、市民とともに条例案づくりをしなから合意形成を深めることを提案したい。

子どももおとなも  
ひとりにしない

市議会議員  
大塚恵美子



詳細はこちら  
http://otsuka.seikatsusha.me/  
twitter: @otsukaemiko  
Facebook: emiko.otsuka.186



選挙 Sunday、新宿紀伊国屋前。女性議員を増やそう!と「VOTE for WOMEN!」の画期的なアクションを実現。大河原まさこ、佐藤かおり、福島みずほが、いのち・平和優先を訴えた。





# 動き出す「東村山エナジー」

6月25日、「NPOこだいらソーラー」と「東村山エナジー準備会」共催による「東村山市民発電所めぐり1周年＆東村山エナジー発足会」が開催された。

36人のご参加、渡部市長、市環境安全部部長、課長のご出席もあり、市民発の地産地消エネルギーの取組みに期待が寄せられた。

小平市、東村山市内に5機の市民発電所をつくってきた「市民発電所をつくろう～こだいらソーラーのあゆみ」を都甲公子理事長が話され、「市民による市民のための市民ソーラー拡大戦略」として「たまエンパワー」の山川勇一郎代表から太陽熱利用の可能性、「こだいらソーラー市民発電所4号機めぐり」を社屋屋上に載せた千葉企業(株)の千葉一枝社長からは「企業市民として地域に生きる」として講演を戴いた。

後半の懇親会では屋上のソーラーパネルからの自立運転機能を使って淹れた紅茶で乾杯し災害時の電気の確保という副次的効果も共有した。4月の電力小売り自由化を経て、自分たちが使うエネルギーのことを考え自ら生み出していくエネルギー自治をめざす取組みをしたいと実感させる会となった。

東村山エナジーの立上げを具体化させるきっかけとなった「デイサービス宅老所しぐれ屋」との「太陽熱利用しぐれ屋プロジェクト」の経緯も披露し、「東村山エナジー設立趣意書」にご賛同の上、ご参加をお願いしたところ多くの賛同を得られた。この夏にはデイサービスのお風呂に活用するための「ソーラーシステム」の設置となる。緊急時の避難拠点として地域還元をめざす意義ある事業として、市民の融資を募る段階に入っている。(大塚恵美子)

## 『若者よ！選挙に行こう！』シール投票

これからの民主主義の行方を大きく左右する今回の参議院議員選挙には、新たに18歳と19歳の有権者が全国で240万人増えた。特に若い世代の投票率を上げたいと『投票に行こう！』アピールを6月の久米川駅頭で実施した。

「あなたが今、おかしいと思うことは？」を問いかけ、おかしいと思うことや気になる項目にシールを貼ってもらい、市民の関心がどこにあるのかを調査するもので、通りがかりの老若男女が多く参加してくれた。「福祉」や「平和」への関心が圧倒的で、「教育」「子育て」「エネルギー」「若者支援」が次に高かった。また、前東京都知事舛添氏の公金の使い方についてメディアが大きく取り上げた時でもあり、「税金の使い方」に

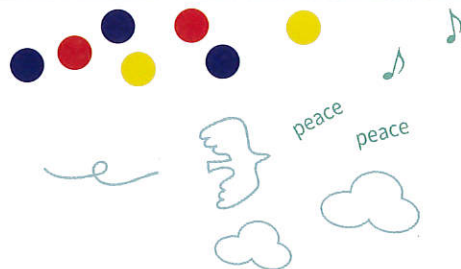


シンガーソングライターのゆっこさん、「9条の歌」でアピール 6/19

も多くのシールが貼られた。これからの世界の食に不安を持つ中学生がいたのが印象的だった。今の政治のここがおかしいと思う事、その思いを「1票に託そう!」「選挙に行こう!」とメンバーがリレートークで訴えた。



更に下校時の高校生や生協の店舗前でもシール投票を実施し、若い世代の人にも参加してもらった。



### 大河原まさこさん、力及ばず

改憲発議に必要な3分の2の勢力を目指す与党は、あえて選挙戦で改憲を語らず、その動きを阻止しようと野党が結束する構図となった今回の参議院選挙。民進党全国比例代表で立候補した大河原まさこさんを、再度国会にと東村山・生活者ネットワークは応援した。結果は71,398票(22人中18位)で落選。「市民の思いを国政に」

の挑戦は、組織を持たない市民には厳しいものだった。しかし、市民自治の力は着実に強まり、SEALDsの出現などで政治や選挙に様々な形で参加する人は確実に増えている。決して諦めず、危機感をもって信念を曲げずに現政権と戦いたい。



乞うご期待!

今秋、市内在住フォトジャーナリスト・豊田直巳監督映画作品

予告

「奪われた村～避難5年目の飯舘村民」

実行委員会形式で上映予定

編集後記

英国のEU離脱の是非を問う国民投票では、間違った情報に左右され、投票後にやり直したいと後悔の声を上げる人もいたと聞く。雰囲気投票してしまうことのないよう、また、政治に関心を持つようになるには、その環境づくりは重要だ。シチズンシップ教育の日常化を望みたい。(順)